

**Service News**

【サービス・ニュース】  
 専門図書館への入口講座 第3回  
**「災害情報へのアプローチ」**  
 —防災専門図書館—  
 3月9日(水) 18:30~19:30 (18:15開場)  
 ■講師:堀田 弥生、矢野 陽子  
 ■場所:3階 ライブラリープラス(グリーンゾーン奥)  
 ■定員:15名 ■参加費:無料

自助・共助・公助という言葉が広がる中、「災害や防災についてもう少し知りたい、でもよく分からない」と思ったことはありませんか? 防災専門図書館では、台風や地震などの自然災害に限らず、火災や事故など様々な災害やその対策に関する約15万冊の資料を収集しています。  
**「利用者の方が求める答えに辿りつくための資料や情報が入手できるよう、お手伝いいたします」(防災専門図書館)**  
 今回の講座では、千代田区を例に挙げ、多種多様な災害情報とどのようにつきあっていけばよいのかをお話しいたします。  
 ※事前申し込みは不要、当日は直接会場へお越しください。

**丸の内の「まちづくり」の変遷**  
 一丁倫敦から東京駅前再開発まで  
 ■講師・東條隆郎(株式会社三菱地所設計 副社長)  
 1890年、明治政府から三菱の岩崎家に土地が払い下げられて始まった丸の内の「まちづくり」について、豊富な写真とともにお話し頂きました。一丁倫敦と呼ばれた洋風の街並みの登場から、高度経済成長期にスーパーブロックとして統一された大型ビル群の時代、そして一号館の復元と高層化により新たな景観をつくり出した今と未来の青写真まで、時代のニーズを先取りし、街全体の機能を意識した開発の現場を覗くことができました。

**わたしの一冊 『幽霊塔』**  
 江戸川乱歩 著  
 当館スタッフの推薦本を紹介し、おすすめする人々におすすめる人々を付、平野靖恵

見事、乱歩様に転がされた1冊。幽霊塔で一目惚れした女が素性を明かすことなく立ち去れば、そりゃあ26歳の青年でなくとも追い駆けたくない。怪しげな脇役、奇妙な会話、未解決事件のタネを小出しにされる度に、マンホールに突き落とされたり、宇宙の果てへと吹っ飛ばされる! 現代にも通ずるエンタメ、グロくも耽美な文とがマッチした世界は癖になる。

岩波書店 / 2015年  
 乱歩様の仕掛けは、時にビックリ箱、時に上質な手品となる。乱歩没後50年を経た今こそ「幽霊塔」へ冒険あれ!

**究極の安らぎ? —風呂・トイレ—**  
 ~5/13(金)  
 2F パープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン  
 あなたにとって浴場やトイレはどのような場所ですか? 一人きりになれるところ、生活に欠かせないところ、リラックスできる場所など、人によって様々な感じ方がある不思議な場所です。今回は、江戸時代から現在にいたるまでの風呂・トイレ・温泉・銭湯の資料を集めました。  
 温泉やトイレを舞台に書かれた小説や、外国人向けに銭湯の入り方を紹介した洋書もあります。普段何気なく使っている場所だからこそ、意外な一面を知って驚くことがあるかもしれません。  
 昔の人々が使っていたトイレや浴場から、最新のトイレ事情・風呂事情まで、様々な本を展示しています。

**祖父江慎+コズフィッシュ展 ブックデザイン** 関連展示  
 ~3/23(水)  
 2F ホール  
 当館1階で開催中の特別展に合わせ、祖父江慎氏と氏が主宰するコズフィッシュが手掛けた装幀本のなかで、当館で所蔵するものすべてを年代別に展示しています。実際に手に取ってご覧いただけます。  
 『装幀で選ぶ本—ジャケ読み—』  
 「写真」「イラスト」「配色」「文字」「パターン」などテーマ別に、思わず手に取ってしまう気になる装丁本をスタッフがセレクトし、展示しています。  
 ●一目見た時のひらめきをたよりに本を選んでみてはいかがでしょうか。●  
 貸出もできます!

**3月の展示情報** ※展示情報は変更する場合がございます。  
 2F ホール 日比谷カレッジ 「情報化時代に考えたい漢字の話」 関連展示(〜3/30)  
 3F グリーンゾーン 「元気白書」(〜6/17) NEW!  
 身体や心が元気になるヒントを与えてくれる本、現代病や最先端医療に関する本、元気が足りない時に読みたい本など、肉体的な「健康」だけでなく多角的な視点から展示を行います。  
 3F ブルーゾーン 「ことば」(〜4/15)  
 私たちがコミュニケーションを図るうえで欠かすことのできない言葉について、その深い世界を学ぶために、「知る」「伝える」「生かす」の3つの視点から関連本を収集し、展示しています。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

# 明治に見る近代と江戸

●特別研究室企画展示●  
**雑誌『風俗画報』で楽しむ明治期の東京めぐり**  
 日本初のグラフィック誌のさきがけ『風俗画報』が創刊された明治22年頃は、一般庶民の暮らしはまだ江戸の情緒ある風景があちこちに見られる一方、文明開化の名のもとに近代化が進み、造船所や煙突の立った工場、女子が学問や職業に必要な技能を身につけるための学校など新しい光景も次々と広がっていきました。本展示では時代とともに変わりゆく東京の様子を記録した『風俗画報』の臨時増刊『新撰東京名所図会』を中心に、「明治でありながら江戸でもある」当時の東京を紹介いたします。

●観覧時間:平日10:00~20:00(土~19:00、日祝~17:00) ※入室は閉室の30分前まで) ●会場:千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室  
 ●観覧料:一般300円、大学・高校生200円 千代田区民・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳をお持ちください。

●主な展示パネル●  
 華族女学校玄関前の図(麹町区)  
 三番町通りより不二を望む図(麹町区)  
 共立女子職業学校教場の図(神田区)  
 東神田染物師の物干し場に高く手拭染を晒らすの図(神田区)  
 聖堂よりお茶の水橋に駿河台望むの図(神田区)

●観覧時間:平日10:00~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

**祖父江慎+コズフィッシュ展 後期展示 ish編**  
 ~3月23日(水)まで  
 休館日:3月21日(月・祝)  
 後期のみどころ  
 ●コズフィッシュの書庫  
 前期の20世紀から21世紀へ「ブックデザイン21世紀(2001~2016)」  
 ●本の実験室  
 本造りの様々な工程をユニークなテーマ分けて紹介。  
 ●漱石室  
 新装版『吾輩ハ猫デアル』の関連展示がお目見え。

**calendar** 開館時間:平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2016年 3月							2016年 4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

お問合せ先:千代田区立日比谷図書文化館  
 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL:施設代表 03-3502-3340  
 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL:http://hibiyal.jp

**access**  
 都営地下鉄  
 ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
 東京メトロ  
 ●丸ノ内線  
 ●日比谷線  
 「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分  
 ●千代田線  
 「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分  
 JR「新橋駅」徒歩10分  
 ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 3・4月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

▶参加申込：電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

## 3/2 (水) 本を読むことの愉しさ、深さ、おもしろさ(全3回) 第3回 言葉の光を求めて ～見知らぬ土地を歩くように～

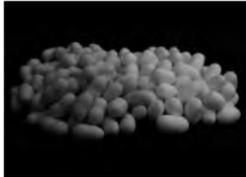
講師：小林 康夫(青山学院大学特任教授) ゲスト：黛 まどか(俳人)  
『知の技法』編者と共に、読書の醍醐味について考えていく全3回講座の第3回。俳句、それは極めてわずかな言葉が切り取ってみせる世界の風光です。そんな極限的な言葉のかたちについて、どう読んでいくかを俳人の黛まどか氏と共に語り合い、「読むこと」の限りなさに触れてみる一夜。(主催：上廣倫理財団)  
■日時：3月2日(水)18:30～20:00(18:00開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：500円(千代田区民及び学生は無料)※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。



©MPd F8 PHOTO STUDIO

## 3/14 (月) 甦る蚕の力 ～養蚕の歴史から最先端技術まで～

講師：町井 博明(国立研究開発法人農業生物資源研究所理事)  
「お蚕様」と敬称をつけて呼ばれ、日本の近代化に大きな役割を果たした養蚕業。皇居では、明治4年以降今日まで、歴代の皇后がご養蚕を続けておられます。人とカイコの関わりや今日に至るまでの歴史、クモ糸シルク・蛍光シルクを始めとした最先端技術まで、いま、甦る蚕の力についてお話いただきます。(協力：国立研究開発法人農業生物資源研究所)  
■日時：3月14日(月)14:00～15:30(13:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：500円



蛍光シルク 繭 自然光

## 3/3 (木) 江戸歴史講座 第37回 出光美術館「勝川春章と肉筆美人画展」開催記念 日常のなかの非日常

— 浮世絵師・勝川春章が描こうとしたもの —  
講師：廣海 伸彦(出光美術館 学芸員)  
役者絵版画で不動の人気を得た春章は、50歳頃から世を去るまで、肉筆の美人画に旺盛な筆をふるいました。彼の美人画の大きな特徴は、日常的で現実的なテーマの中に優美な趣をにじませるところにあります。この講座では、春章が目指した女性表現の理想を考えます。  
■日時：3月3日(木)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)  
■定員：200名 ■参加費：1000円(千代田区民 500円)



美人鑑賞図 勝川春章 江戸時代 出光美術館

## 3/5 (土) バリアフリー映画会『舟を編む』

音声ガイドと字幕によって、視覚や聴覚に障がいのある方も一緒に楽しめるバリアフリー映画を上映。原作の『舟を編む』もご参加いただけます。音声ガイドと字幕がつきましますのでご了承ください。  
■日時：3月5日(土)14:00～16:30(13:00開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：無料  
※車椅子スペースをご希望の方は、申込時にお申し出ください。



## 3/13 (日) ピースビレッジ 第40回 企業目線から、介護問題について考える

講師：酒井 穰(事業構想大学院大学・客員教授)  
財源に苦しむ日本の福祉社会は、今後10年の間に介護離職が爆発的に増えるでしょう。ほとんどの人にとって親の介護は自分が定年になるまでに起きる事件です。多くの人が直面する「仕事と介護の両立」について、その問題をみなさんと考えたいと思います。※ポモーヌ2月号に掲載した「次回予告」より、タイトルのみ変更となりました。(主催：NPO法人世界連邦21世紀フォーラム)  
■日時：3月13日(日)14:00～16:30(13:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：3000円



酒井 穰

## 3/24 (木) 日本人ノーベル賞受賞者の素顔と業績 —それは湯川秀樹から始まった—

講師：後藤 秀機(サイエンスライター、医学博士)  
ノーベル賞の科学分野では、今や日本はアメリカに次いで毎年のように多くの受賞者を輩出しています。講義では、そのうち湯川秀樹から今年度受賞者の梶田隆章、大村智など、人類の自然観や世界観に革命を起こした科学者たちを取り上げます。さらに、なぜここまで日本が発展できたのか、また科学大國日本の未来について考えます。  
■日時：3月24日(木)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：1000円



左：湯川 秀樹博士 右：朝永 振一郎博士 (湯川家提供)

## 3/26 (土) 中学・高校の図書館を新しい学びの拠点にするには

講師：有山 裕美子(工学院大学付属中学校・高等学校専任司書教諭)  
中高生は本を読まないとは本当なのか。また「読書」とは何か。講師の職場での学校図書館活用事例や生徒の日常に触れながら、「学び」と読書の関係や高度な情報社会に図書館がいかに対応していくかなど様々な角度から図書館をとらえてみます。  
■日時：3月26日(土)：15:00～16:30(14:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：無料



## 3/28 (月) クラシック森羅万象～自然を描く名曲たち～

ーラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2016を前にー(全2回) 第1回 ルネサンス&バロック時代からベートヴェンまで  
講師：オヤマダアツシ(音楽ライター)  
クラシック音楽の歴史においても、多くの作曲家たちが大自然に敬意を表し、鳥のさえずりや水の流れ、雷鳴などを楽器で表現するべくいろいろな手法を使ってきました。そうした作品を聴きながら音楽史の変遷や時代背景なども紹介。音楽の中に息づく自然の命を味わいます。(協力：東京国際フォーラム、ラックスマン、フォステクス、ナクソス・ジャパン)  
■日時：3月28日(月)19:00～20:30(18:30開場) ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：各回500円  
〈第2回予告〉4月6日(水)19:00～20:30 第2回 19世紀のロマン派時代から近現代まで



## 3/30 (水) 情報化時代に考えたい漢字の話

講師：武田 康宏(文化庁文化庁国語課 国語調査官)  
PCやスマホの普及で、漢字の使い方が変わってきています。漢字は社会を映し出し、社会の変化は漢字の用い方を変えました。2010年改訂の常用漢字表やこの2月に発表の字体・字形に関する新指針も含め、文化庁で国語施策に携わる講師が漢字についてお話します。(協力：文化庁)  
■日時：3月30日(水)19:00～20:45(18:30開場)  
■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：200名 ■参加費：500円



## 3/31 (木) 世界の名だたる高峰を登攀する

講師：青木 達哉(アルパインクライマー、登山家)  
世界第2位の高峰K2(標高8,611m)は、世界最高峰のエベレストより登頂が困難と言われています。そんな難易度の高いK2に世界最年少で登頂した青木氏。「山の日」が制定された2016年、難関の山々へ挑む志や信念、頂から見える大展望、登山の魅力について語っていただきます。  
■日時：3月31日(木)19:00～20:30(18:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：1000円



## 4/7 (木) 春の日比谷公園 花めぐり 午前の部・午後の部

講師：高橋 康夫(公益財団法人 東京都公園協会 緑と水の市民カレッジ事務局長) 七理 朋子(公益財団法人 東京都公園協会 緑と水の市民カレッジ事務局教育調査係長)  
都会のオアシス日比谷公園は今年6月に開園113年目を迎える歴史ある公園です。緑にあふれる当公園は季節ごとに様々な花が咲き、人々の憩いの場となっています。花々や若葉の美しさを感じながら、歴史ある公園で春の植物散歩を楽しみましょう。(協力：東京都公園協会)  
■日時：4月7日(木)  
〈午前の部〉10:30～12:00(10:00より受付)  
〈午後の部〉14:00～15:30(13:30より受付)  
■集合：日比谷図書文化館1階受付前  
■定員：各回25名  
■参加費：各回500円(保険代含む)



チューリップ花壇

## 4/9 (土) ヨーロッパ・コミックスの冒険 ～出会いから現在までを語る～

講師：小野 耕世(映画・マンガ評論家)  
フランス語圏で発行されるバンド・デシネ(BD)を始め、世界のマンガ文化圏の一角を担うヨーロッパ・コミックスについて、海外コミック研究の第一人者である小野耕世氏が、1950年代の出会いから歴史的な流れ、親交を得た作者たちとのエピソードと作品について、縦横無尽に語ります。  
■日時：4月9日(土)14:00～16:00(13:30開場)  
■会場：4階 スタジオプラス(小ホール)  
■定員：60名 ■参加費：1000円



## 4/14 (木)他 ファイリング・ゼミ ～仕事の効率が上がる ワンランクアップのオフィス整理術(全2回)

講師：小野 裕子(ファイリング・コンサルタント)  
オフィス内のあらゆる文書・情報の整理のベースとなるファイリング・システム。その基本知識や取り入れ方などを豊富な事例やサンプル用品の使用で、実践的にコンパクトに学びます。(2015年6月3日・10日に開催した内容と同じです)  
■日時：第1回：4月14日(木)19:00～21:00(18:30開場) 第2回：4月21日(木)19:00～21:00(18:30開場)  
■会場：4階 セミナールームA(会議室) ■定員：24名  
■参加費：4864円(全2回分。資料代含む。各回の申込みは出来ません)



## 古文書塾 てらこや 体験講座

「古文書塾てらこや」は古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。4月期の開講に合わせて、この度古文書の世界に無理なく入っていける「体験講座」をご用意いたしました。各コース別の体験講座実施日は下記の通りです。まずは体験講座をお試しください。



体験講座 各回1000円

	講座名	曜日・時間	体験講座実施日
入門コース 120分	古文書のいろは 筆字のくずし字	(火) 10:10～	3/22
		(火) 13:30～	3/22
		(木) 13:30～	3/24
		(金) 13:30～	3/25
		(金) 18:30～	3/25
	いろはの次—江戸時代の海外知識	(金) 10:10～	3/25
本科コース 120分	文人画と碑文—掛軸を読む	(月) 18:30～	3/28
	武家文書を読む—幕府崩壊事情	(水) 13:30～	3/30
	江戸のコミック(黄表紙)と滑稽本を読む	(金) 18:30～	3/25
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(応用編)	(土) 13:30～	3/19
特別講座 90分	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	3/29
	浮世絵を読む	(水) 10:10～	3/30
	豪商三井の発展—三井文庫史料にみるその実像	(水) 19:00～	3/30
	江戸を楽しむ—続・江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	3/24
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土) 10:30～	3/19

■参加費：各回1,000円  
■会場：4階 セミナールーム(会議室)  
■資料請求・体験講座のお問合せ：電話(03-3502-3340)日比谷図書文化館代表) 古文書塾てらこや担当迄

## ◆ポモーヌ広報室より◆

朝の連続テレビ小説でも衣食住や女性の社会進出など変化する時代が描かれています。雑誌『風俗画報』からも同じ時代の様子をうかがい知ることが出来ます。流行の帽子や鞆の情報、呉服店の折りたたまれた広告や“帽子早あらひ(洗い)”といった当時ならではの仕事の挿絵などページをめくると発見があります。どこか懐かしく面白い『風俗画報』ちょっと覗いてみてください。